

安全保障関連法案に反対する

創価大学・創価女子短大関係者・有志の会 声明

2015年8月

平和は自由な対話、すなわち人権の尊重からはじまります。

大学正門に掲げられた「創價大學」の文字は、教育と人権の勝利を信じつつ対話を貫き通し、軍部権力の弾圧により獄死した「創価教育の父」牧口常三郎先生の筆によるものです。いかなる圧迫にも屈せず、民衆のために声をあげること。これこそが創価教育の魂だと私たちは信じます。

現在、9割の憲法学者が「違憲」と判断している安全保障関連法案が、安倍政権により採決されようとしています。私たちはガンジー、キングの人権闘争の流れに連なる創立者・池田大作先生の人間主義思想を社会に実現すべく学び続けてきました。そこで培った人権意識を持つ者なら、声を上げるべき時は、今です。

私たち関係者有志は、創立者・池田大作先生の理念を我が人生の根幹に据え、安全保障関連法案への「反対」を表明します。

「英知を磨くは何のため 君よ それを忘るるな」(創立者・池田大作)

この言葉を深く心に刻み、「人類の平和を守るフォートレスたれ」との建学の精神を生涯堅持することを、ここに誓います。

呼びかけ人 (五十音順)

五十嵐恵(36期 卒) 植村紀孝(19期 卒) 氏家法雄(創価女子短期大学教員)
金田建志(元創価大学職員) 佐野潤一郎(創価大学教員・13期 卒) 鈴木隆文(2期 卒)
竹原弘樹(39期 卒) 戸田通隆(通信教育 在学) 長谷伸之(7期 卒) 村田憲一(22期 卒)

賛同署名

【学生】 和合勇磨(43期)、佐々木大樹、野宮麻里奈、山村敏幸、廣岡侑真、平岩貴志(44期)、高谷誉、女神愛、山田栄一、福島玲子、永松健治、西村好弘(通教)、川崎里実(通教)、山口光司、千葉晴美、高野春子(通教)、上原健次、近澤悠也、狩野亮子、赤塚和夫、

堀義明（44期）、川上青春、菱田祥子、新垣真一郎、山口孝幸（通教）、白井佳奈千、安森純、大極正美（42期）、福地海斗、按田勝彦（通教）、石井幸子（通教）、永松強暁、山本秀美、岡田三奈子

【教員】 栗津賢太（非常勤講師）、碓井健寛（経済学部教員）

【卒業生】 佐藤達人（19期）、鶴川辰夫（通教）、伊木半兵衛、石川博、岩間豪樹（36期）、西田直樹、鈴木智洋、田中栄一（24期）、上原信明（38期）、高橋明保（41期）、山本栄一（25期）、東一弘（3期）、西岡俊彦（21期）、田中泉（2期）、王広子（15期）、上田将史（20期）、とだしんさく（23期）、小塚正幸、四之宮英一（9期）、服部ひとみ（10期）、濱崎英雄（24期）、二上美和子（35期）、芦澤久美子、田河豊子（通教）、鎌田華子、平瀬賢児、浅山太一、青山昌史（1期）、北林佐市、齊藤伊弘（9期）、山口央、松田賢一、千葉栄司（通教16期）、佐藤光昭（29期）、宮田和久（通教）、中原伸一、藤原なおみ（7期）、廣川文彦（5期）、山崎進、町田潤一（18期）、中林三千代（14期）、今井節子（通教）、松木康浩、岸田幹雄、石原茂生、吉田勝郎、輪島尊基（法科院2期）、齊藤風果、藤本大成（1期）、福島信明（19期）、佐々木由美子（21期）、辻村伸雄（30期）、美智子ペリー、宮城勇（8期）、江本泰也（19期）、永井正孝（35期）、辻本勇二（41期）、長橋広行（8期）、鈴木松司（12期）、鈴木広宣（12期）、佐藤直人、殿内忠邦（24期）、石黒みのり（36期）、ヒノユウジ（23期）、鈴木義雄（21期）、坂本浩、藤森真信（16期）、堀岡正昭（20期）、中川久子（28期）、岡林一弘（26期）、沓掛栄一（20期）、澤野啓子（短大13期）、山本大作、稲見敏朗（通教16期）、山田雅人（30期）、植木竜司（30期）、溝端栄一（24期）、清水一郎、牛越国博、浦田貴（40期）、河村杏里（41期）、大草稔、栗津香代子、前田尚紀（9期）、工藤真秀（短大7期）、角田伸一（15期）、山崎秀夫、栢森博正、村上友紀（22期）、鈴木由紀子（20期）、石川優子（短大2期）、町田修（9期）、北川茜、佐藤明子、荒井遼太、小澤忠義（26期）、田辺良一（13期）、山本直樹（通教）、永田由利子（通教18期）、永田彰（通教18期）、住友絵（20期）、加藤由貴子、植松晃一（28期）、三品勝己（通教）、junko yamaguchi、三品勝己（通教）、山下耕二、新稲八三、菅森博司（7期）、赤岩寛隆（8期）、前田浩子（通教）、浜崎順平、伊藤勇氣、永江衣玖（19期）、安達真、下林義尚（32期）、増山雅典（11期）、篠塚広宣（16期）、久保田智行（25期）、観野誠（通教）、平木晴子（26期）、佐々木了淳、松本雄大、藤本幸子（短大10期）、加藤勝、前田由貴子、森陽子、和氣秀典（3期）、阿部泰三（9期）、齋藤和彦（17期）、大塚稔、荒潔（18期）、寺嶋寛大、唐澤厚史（35期）、永井秀之（29期）、山岡裕明（28期）、長谷川満孝（12期）、浅川潤（32期）、藤川勝彦（16期）、北村光広、中原颯、人見哲夫、新井利彦（文院36期）、吉田秀樹、赤島吉昭（3期）、奥田章雄、川崎孝行、岩佐正弘（18期）、秋山靖恵、早川雅二（3期）、塩原正伸

参 考

私たちの大学の創立者・池田大作先生は、かつてアーノルド・トインビー博士との対談で次のように述べられています。

「自衛権は、対外的には、いうまでもなく、他国の急迫不正の侵略に対して、国家の自存を守る権利です。それは、対内的には、そして根本的には、国民の生きる権利を守るという考え方に根ざしています。すなわち、個人の生命自体を守るという、自然法的な絶対権の社会的なあらわれが国の自衛権というものであると思います。であるならば、その自衛権をもって他国の民衆の生命を侵すことができないのは、自明の理です。ここに自衛権の行使ということの本質があります。

問題は、あらゆる国が他国からの侵略を前提として自衛権を主張し、武力を強化しており、その結果として、現実の国際社会に人類の生存を脅かす戦争の危険が充満していることです。

しかし、この国際社会に存在する戦力に対応して「自衛、できるだけ戦力をもととすれば、それはますます強大なものにならざるをえません。それゆえ、武力による自衛の方向は、すでに行き詰ってきているといえましょう。」

聖教ワイド文庫 『21世紀への対話<中>』より